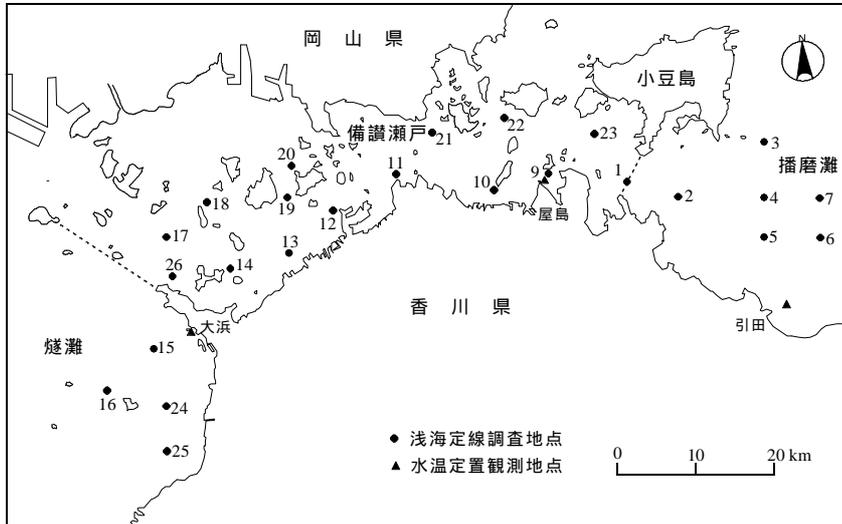


香川県漁海況速報 平成17年 9月 (H17- 6号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成 17 年 9 月 8 日 (播磨灘), 1, 2 日 (備讃瀬戸, 燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「やや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	26.0	25.7	25.0	32.1	32.3	32.3	5.6	4.19	3.87
	平年値	26.7	26.1	25.1	31.7	31.7	31.9	7.9	4.44	2.99
	平年偏差	-0.7	-0.5	-0.1	0.5	0.5	0.5	-2.3	-0.25	0.88
	状況	やや低め	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	26.4	25.9	25.8	32.6	32.6	32.6	4.5	3.95	3.81
	平年値	26.8	26.5	26.4	31.6	31.7	31.7	4.3	4.23	4.00
	平年偏差	-0.3	-0.6	-0.6	1.0	0.8	0.8	0.2	-0.28	-0.19
	状況	平年並み	やや低め	やや低め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	27.7	25.6	24.2	32.6	32.7	32.8	13.1	4.20	3.36
	平年値	27.6	26.2	24.7	31.7	32.0	32.2	10.3	4.54	2.69
	平年偏差	0.2	-0.6	-0.5	0.9	0.7	0.6	2.8	-0.34	0.67
	状況	平年並み	やや低め	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温, 塩分及び透明度: 昭和 48 年 (1973) 1 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

溶存酸素: 昭和 48 年 (1973) 2 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

水温は, 毎月 1 日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	

各海域の観測日が離れたので、水温、塩分、透明度の等値線図は記載していない。

2) 定置観測(水温)

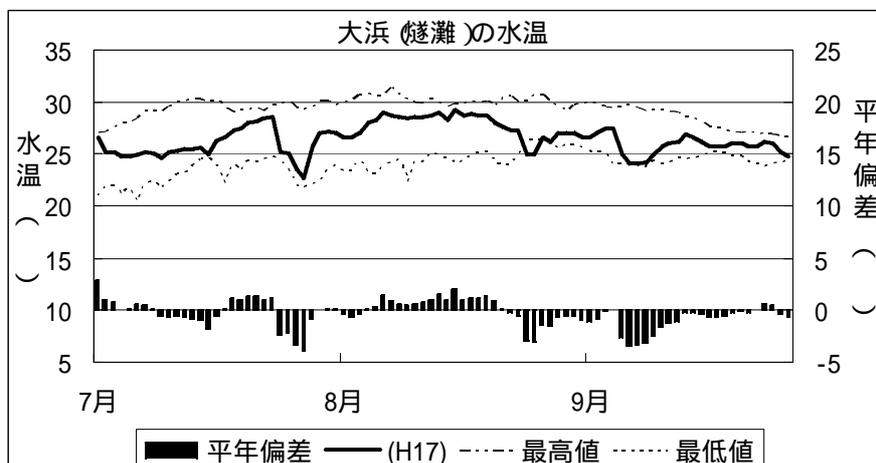
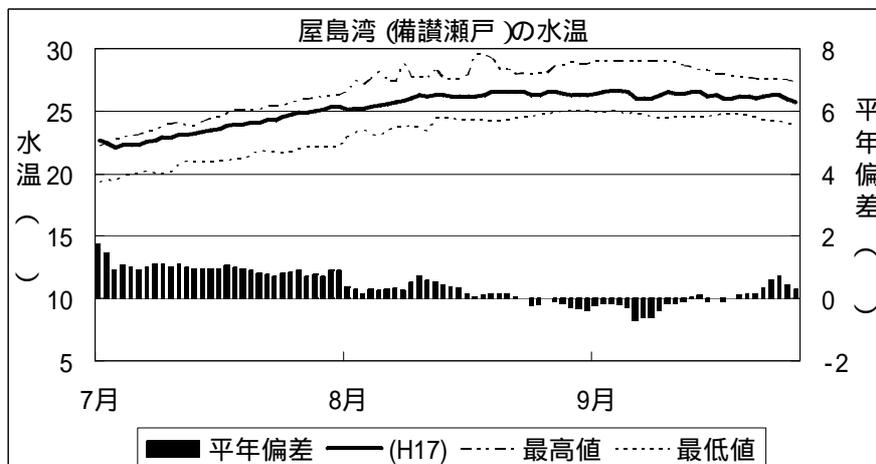
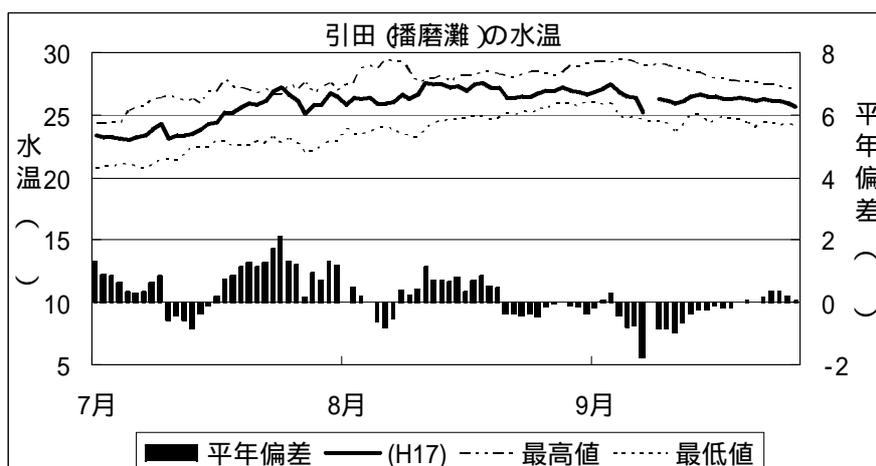
播磨灘(引田): 8月上旬は平年偏差が一時 - 1 程度まで低下したがその後上昇し1 程度で推移し、下旬には低下し平年値をやや下回って推移した。9月に入り一時上昇したが、その後 - 1.8 に低下した後上昇し、中下旬平年値前後を推移している。

備讃瀬戸(屋島): 8月上旬は平年偏差が0.5 前後で推移し、中旬から9月上旬まで徐々に - 0.7 程度まで低下した後上昇し、中旬平年値前後で推移し、下旬 0.7 まで上昇した後低下している。

燧灘(大浜): 8月に入り平年値前後で、その後平年偏差が1 前後で推移し、下旬から9月上旬にかけて - 4 から平年値程度の間で大きく2回変動した後、中旬から平年値前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成16(2004)年

屋島: 昭和50(1975)~平成16(2004)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。
備讃瀬戸：発生なし。
燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成17年9月8日（播磨灘），1，2日（備讃瀬戸，燧灘）

出現量 個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.60	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	13.00	14.30
備讃瀬戸平均	0.90	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	7.10	4.10
燧灘平均	1.90	1.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.70	7.90
総平均	1.07	0.47	0.00	0.00	0.00	0.00	7.20	7.70

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	3.3%	8.7%	-	-
備讃瀬戸平均	108.4%	48.8%	-	-
燧灘平均	12.6%	99.3%	-	-
総平均	12.2%	56.0%	-	-

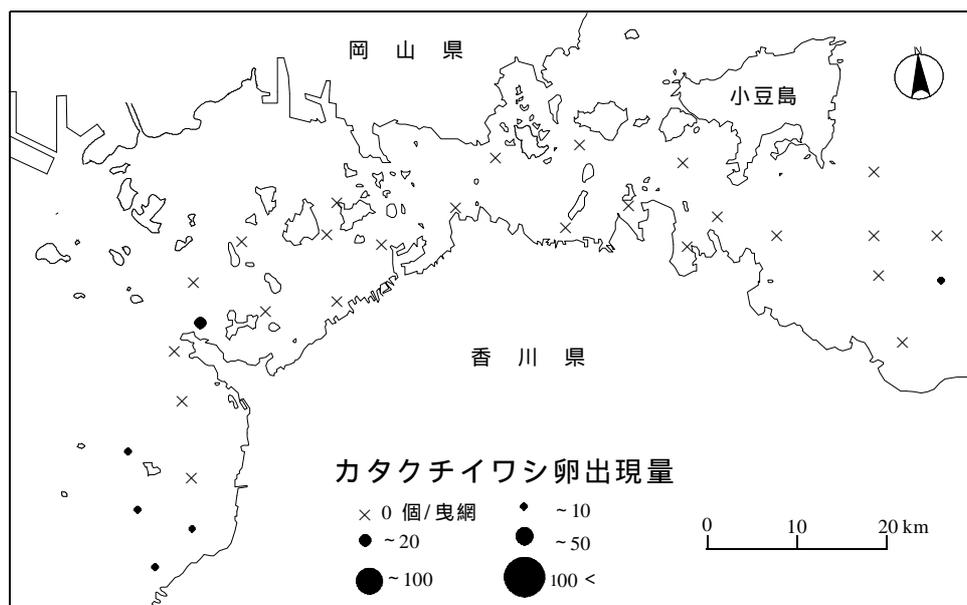
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成16（2004）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成16（2004）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網は主にイボダイ，ハモ，コウイカ類，小エビ類が漁獲されている。</p> <p>ます網ではスズキ，コウイカ等が漁獲されている。</p> <p>大型定置網では，タチウオを中心にマルアジ，イボダイ等が漁獲されている。</p> <p>シラスの船びき網は低調ながら漁が継続していたが，9月前半の台風14号後は休漁状態である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類，メイタガレイ，マダイ，ハモ，小エビ類が漁獲されているが，マアナゴは少ない。</p> <p>マナガツオの流し刺網，込網は不漁のまま9月中旬で漁期が終了した。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小エビ類，シロギス，アカカマス，タチウオ，クルマエビ，テンジクダイ，ネズップオ類，ガザミ，コウイカ類を漁獲している。</p> <p>クルマエビは平年より多く漁獲されている。</p> <p>イワシ機船船びき網の9月中旬までの漁獲量は約8,400トで前年の135%であった。銘柄別では中羽，チリメンの漁獲が好調であったが，漁期は，ほぼ終了した。</p>